生命（いのち）のにぎわい調査団
生命（いのち）のにぎわい通信

第 46 号：発行　平成 30 年（2018 年）4 月

発行：千葉県環境生活部自然保護課
千葉県生物多様性センター

〒260-8682　千葉市中央区青葉町 955-2
（千葉県立中央博物館内）
TEL 043-265-3601　FAX 043-265-3615
URL http://www.bdcchiba.jp/monitor/
E-mail monitor@bdcchiba.jp

生命のにぎわい調査団 10 周年！

生物多様性センターと同時に発足した生命のにぎわい調査団は今年で 10 周年を迎えます。団員数は 1,348 名、報告件数は 94,800 件（3 月 20 日時点）に達し、10 万件が目前に迫っています。9 年分のデータを集計した結果の一部をご紹介します。（写真右下は撮影者の団員番号です。）

どんな生き物が報告されたの？

これまでよせられた報告の中で最も多かった分類群が鳥類の約 6 万 5 千件で、全体の 7 割を占めました。次いで多かったのが、昆虫や維管束植物でした。逆に報告が少なかったのが、魚類や地衣類・菌類などで普段私たちが見る機会の少ない生物だということがわかります。

調査対象種の 57 種の報告件数をみると、最も多かったのがオオバン（4,379 件）で、少なかったのはツマジロナガウニ（0 件）でした。オオバンは全身が真っ黒で、湖沼や河口など生息域が広いこともありますが、都市部にも生活するので、発見しやすかったと思われます。残念ながら報告が少なかったツマジロナガウニ、海草のマツモ、ハリセンボン等は海の生き物なので、海をフィールドにする団員が少なかったのかもしれません。海へ行く機会がありましたら、磯や波辺などでぜひ生き物を観察してみてください。

分類群ごとの報告件数

分類群	報告件数（種数）	割合（%）
鳥類	65,390（301）	74.0
昆虫	12,180（1,194）	13.8
維管束植物	4,879（775）	5.5
両生類	1,566（15）	1.8
は虫類	1,467（23）	1.7
その他の動物	1,370（207）	1.5
哺乳類	872（28）	1.0
魚類	561（77）	0.6
地衣類・菌類	107（36）	0.1
コケ類・藻類	9（3）	0.0

調査対象種の報告件数

順位	和名	報告件数
1 位	オオバン	4,379
2 位	モズ	3,080
3 位	キジ	2,028
4 位	カワセミ	1,770
5 位	ツバメ	1,046
53 位	スベスベマンジュウガニ	4
53 位	ハリセンボン	4
55 位	マツモ	2
56 位	アフリカツメガエル	1
57 位	ツマジロナガウニ	0

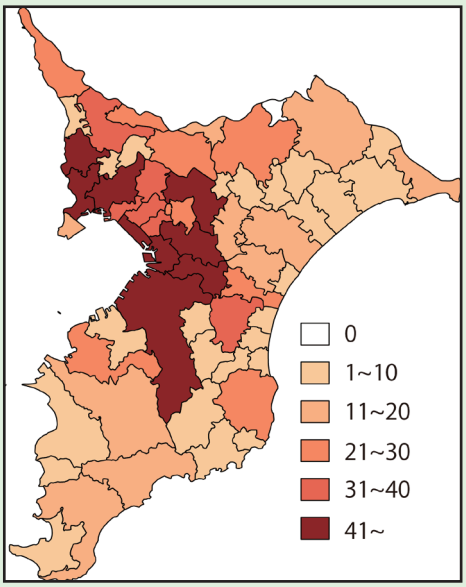
＊ 2017 年までの報告を集計しました。

市区町村を比べてみると？

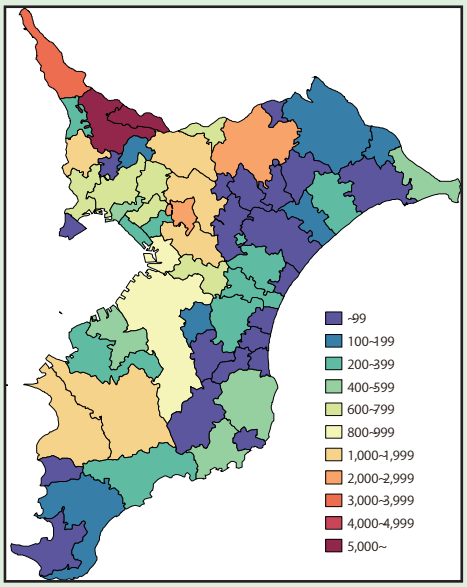
団員が最も多かったのが船橋市（107 名）で、少なかったのが神崎町（0 名）でした。団員は都市部に集中し、県の東部や南部には少ないことがわかりました。

報告件数が最も多かったのが我孫子市（46,018 件）、柏市（12,077 件）でした。これらの市は多くの野鳥が生息する手賀沼に接しているため、報告件数が多かったと思われます。最も報告件数が少なかったのが神崎町（7 件）や睦沢町・白子町（ともに 8 件）でした。当然ですが、報告件数は団員が多い市区町村のほうが多い傾向がありました。

報告件数が少ない地域でも多様な生物が生息しています。これらの地域からの報告をお待ちしております。また、積極的に団員を増やすように働きかけたいと思います。



市区町村ごとの調査団員数



市区町村ごとの報告件数

皆様の調査報告は千葉県内の自然を守るための基礎資料となります。今後もよろしくお願いします。

最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報は、当センターと調査団のホームページをご覧ください
「生物多様性センター」http://www.bdcchiba.jp/　「調査団」http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html

平成 29 年度 生命（いのち）のにぎわい調査フォーラムを開催しました

平成 30 年 3 月 10 日（土）

生命のにぎわい調査団恒例の生命のにぎわい調査フォーラムを、中央博物館講堂で開催しました。80 名（団員 47 名、団員以外 24 名、職員 9 名）が参加して、千葉県の生き物について最新情報を交換しました。

1　講演「身近なアリとヒアリ」　生物多様性センター 副主幹　大木 淳一

千葉県でよく見られるアリの見分け方や生態の解説とヒアリの見分け方の解説、実物標本の展示等。

2　講演「印旛沼水系のカミツキガメ」　生物多様性センター 技　師　今津 健志

一年間の印旛沼水系における特定外来生物カミツキガメの特徴や生態の解説、捕獲事業の実態等の解説。

3　報告「調査団の生き物調査報告のデータ解析」　生物多様性センター 嘱　託　森 晃

過去 9 年分、約 8 万 8 千件の報告データを集計した結果や今後の課題について解説。

4　調査団員からの情報提供・観察事例紹介

①「トウキョウサンショウウオの生態と環境報告」　高見　等　（a0195）

②「千葉公園のキンクロハジロ」　小原 邦夫　（a1065）

③「大きなクモと小さなクモの話」　泉 宏子　（a0550）

④「三宅島在住レポート～三宅島の野鳥たち～」　中込 哲　（a0512）

5　生物多様性センターからの情報提供

「フィールドサイン入門～身近な外来獣類を探し出そう！～」　生物多様性センター 副主査　鈴木 規慈

［最優秀賞］
和田　敦子「ノスリを追うチュウヒ」

［優秀賞］
髙田　喬「一斉に飛びたったアマサギ」

同時開催！ 写真コンテスト

フォーラム参加者の投票により、応募された力作 42 点から最優秀賞と優秀賞を決定しました。今年度も以下のように、応募全作品を展示しています。

トピックス展「生命（いのち）のにぎわい」

～ 生命のにぎわい調査団 生物多様性 写真展 ～

平成 30 年 3 月 13 日（火）～ 5 月 6 日（日）　中央博物館常設展示室廊下

※ 観覧には博物館の入館料が必要です

平成 30 年度 第 1 回現地研修会 in 畔田谷津（佐倉市）開催のお知らせ

平成 30 年 5 月 12 日（土）・15 日（火）

午前 9:30 ～ 午後 2:50　畔田谷津（佐倉市）

2 日間、同じプログラムで開催します。
どちらか一方を選んでお申込みください。

両日とも 定員 50 名
（定員を超えた場合は抽選となります）

佐倉市西部の畔田谷津で、春の生きものを観察します。
森と谷津の生きものだけでなく、上手繰川でカメ調査も見学します。

＜生命のにぎわい調査団事務局担当が代わりました！＞

4 年間事務局を担当した御巫由紀さんが中央博物館へ異動し、その後任として大木淳一が担当することになりました。専門は地質学ですが、生き物の生息環境を地質学的に研究しております。来年 2 月下旬に、タゴガエルの産卵場所と地質学との関係を解き明かす現地研修会を開催予定ですので、お楽しみに！

タゴガエル

メールアドレスなど、団員登録情報に変更がありましたら、事務局までお知らせください